平成26年度　英語力調査（高校3年生）結果の概要

1　調査の目的

○　高校3年生を対象に、英語の４技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）がバランスよく育成されているかという観点から、生徒の英語力を測定し、調査結果を学校での指導や生徒の学習状況の改善・充実に活用。

〈参考〉
第２期教育振興基本計画（平成25～29年度）に、グローバル人材の育成に向けた取組として、民間の資格・検定試験団体と連携した生徒の英語力の把握・検証による戦略的な英語教育改善の取組支援を提言。また、成果指標として、高校３年生の英語力の目標を設定。

＊第２期教育振興基本計画（平成25年～29年度）における成果指標
①国際共通語としての英語力の向上
・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%

2　調査の内容・対象

○　全国の高校3年生約7万人（国公立約480校）の英語力を調査
・学習指導要領に基づき、全員を対象に３技能（聞くこと、読むこと、書くこと）試験を実施。
・「話すこと」は約１．7万人を調査（１校あたり１クラスを対象）。

○　生徒の英語学習状況や英語担当教員の指導状況を把握・分析(質問紙調査)
・受験した生徒：英語学習に関する関心・意欲や授業内外における学習状況
・調査実施対象校の英語担当教員：授業における指導状況　　等

○　学校の取組事例
・調査結果において特徴が見られた学校における取組内容の調査

○　試験実施時期：平成26年７月～９月

3　調査の特徴

○　国による全国無作為抽出で行う大規模な4技能型試験の初めてのフィージビリティ調査。

○　平成26年度は旧学習指導要領（平成20年改訂前）で学んだ高３生を対象とした調査。
（平成27年度は現行学習指導要領で学んだ生徒の調査を実施し、経年比較を行う予定。）

○　高校生の英語力を幅広く測定するため、世界標準となっているCEFR（Common European Framework of Reference for Languages：ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1からB2までのレベルを測定できるように設計。（別紙参照）

4　テスト結果と質問紙の分析及び今後の「改善の方向性」のポイント

[総論]

４技能全てにおいて課題があるとともに、
特に「書くこと」「話すこと」について**課題が大きい**。

生徒の英語力について特に「書く」「話す」が課題

1．英語学習に対する生徒の意識

学習意欲に課題

P.5参照

＜テスト結果と質問紙の分析＞

○生徒の英語学習に対する意識①

・英語が**好きではないとの回答が半数を上回る。**　特にA1レベルにおいて顕著。

・**テストスコアが高いほど、**英語学習は好きと回答する**生徒の割合が高い。**

○現在の英語力と将来の英語使用のイメージ②

・現在の英語力のレベルによって将来の英語使用のイメージが異なる。「英語をどの程度身に付けたいと思っていますか」という問いに対し、**テストスコアが高いほど、**「英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい」「大学で自分が専攻する学問を学べるようになりたい」といった**将来の英語使用のイメージが明確な生徒の割合が高い。**

〈1．の改善の方向性〉

⇨　生徒が**「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、**主体的に学ぶ意欲・態度の育成を含めた**具体的な指標形式の目標の設定**し、生徒が達成感を得られるようにする。

併せて、**主体的な学びにつながる学習・指導方法（アクティブ・ラーニング）、及び評価方法の在り方を検討・改善**。

2．４技能を活用した言語活動に対する生徒の意識

特に「話す」「書く」言語活動が十分でない

P.6,7参照

＜テスト結果と質問紙の分析＞

○４技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「読むこと」「聞くこと」①

・英語を読んだり聞いたりして、**概要や要点をとらえる活動をしていた生徒は半数を上回る。**
（合計：リーディング67.2%、リスニング58.2%）

・「読むこと」「話すこと」の**テストスコアが高いほど、**授業において「概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」**生徒の割合が高い。**

○４技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」②

・聞いたり読んだりしたことについて、英語で話し合ったり意見交換をした**経験が少ない**（合計：35.2%）。

・「話すこと」の**テストスコアが高いほど**、授業において「生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思う」**生徒の割合が高い。**

○４技能を通じた言語活動に関する生徒の取組状況「話すこと」③

・英語でスピーチやプレゼンテーションをした**経験が少ない**（合計：22.9%）。

・「話すこと」の**テストスコアが高いほど、**授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」**生徒の割合が高い。**

〇言語活動に対する生徒の意識：「聞いたり読んだりしたことについて書くこと」
（２つ以上の技能統合型）

・聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりした**経験が少ない**（合計：38.7%）。
・「書くこと」の**テストスコアが高いほど**、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた**生徒の割合が高い**。

〈上記２．の改善の方向性〉

⇨　基礎的な知識・技術を活用し、生徒の興味・関心が高い話題や、時事問題や社会的な話題など幅広い話題について**「発表・討論・交渉」などの言語活動を豊富に体験**させ、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする**総合的なコミュニケーション能力を高める**必要がある。

⇨　**あわせて**「聞いて書く」など複数技能を統合して使う活動を通して、生徒が**実社会や実生活の中で、自らが課題を発見し、主体的・協同的に探求し、考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習・指導方法（アクティブ・ラーニング）や評価**を行うことが必要。

３．４技能を活用した言語活動に対する教員の意識

技能統合型の言語活動・指導が十分でない

P.8参照

〈質問紙の分析〉

〇授業における言語活動の指導①
＜技能統合型：聞いたり読んだりしたことに基づく話合いや意見交換・書く活動＞

・聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話合いや意見交換を行っている教員（合計：33.0%）、書く活動を行っている教員(合計：39.7%）が**少ない**。

〇授業における言語活動の指導②
＜技能統合型：スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション＞

・スピーチやプレゼンテーションを行っている**教員が少ない**(合計：28.0%)
・ディベートやディスカッションを行っている**教員が非常に少ない**(合計：6.9%)

〈３．の改善の方向性〉

⇨　**教員養成・研修において、１．２の改善の方向性に沿った実践的な内容の改善が必要。**

・ペア・ワーク、グループ活動などを含めた学習・指導方法、時事問題や社会的な話題などについて「発表・討論・交渉」などを行う模擬授業、「話す」「書く」の能力を測るパフォーマンステスト等を強化

生徒全体の英語力の傾向

○「読むこと」「聞くこと」は、ＣＥＦＲ（ヨーロッパ言語共通参照枠）A1上位からA2下位レベルに集中。

○「書くこと」の得点者は全体の約70％（無回答：29.2％）、「話すこと」の得点者は全体の約85％（無回答：13.3％）となっており、課題が大きい。

【生徒全体のスコア分布】

＜読むこと＞43問（約45分）

CEFR	得点	Reading	割合
B2	320	77	0.2%
	310	18	
	300	27	
B1	290	37	2.0%
	280	69	
	270	82	
	260	107	
	250	157	
	240	195	
	230	317	
	220	420	
A2	210	561	25.1%
	200	778	
	190	1124	
	180	1477	
	170	1956	
	160	2610	
	150	3545	
	140	5245	
A1	130	8192	72.7%
	120	11790	
	110	12508	
	100	9796	
	90	4698	
	80	1823	
	70	604	
	60	208	
	50	76	
	40	51	
	30	19	
	20	2	
	10	0	
	0	285	
	平均	129.4	
	調査対象	68,854	

＜聞くこと＞３６問（約25分）

CEFR	得点	Listening	割合
B2	320	175	0.3%
B1	310	50	2.0%
	300	70	
	290	68	
	280	109	
	270	126	
	260	160	
	250	227	
	240	256	
	230	341	
A2	220	454	21.8%
	210	615	
	200	748	
	190	992	
	180	1241	
	170	1731	
	160	2199	
	150	2996	
	140	4034	
A1	130	5438	75.9%
	120	7684	
	110	8831	
	100	9026	
	90	7840	
	80	5782	
	70	3474	
	60	2125	
	50	920	
	40	396	
	30	189	
	20	106	
	10	99	
	0	352	
	平均	120.3	
	調査対象	68,854	

＜書くこと＞２問（約25分）

CEFR	得点	Writing	割合
B2	140	2	0.0%
	135	0	
	130	3	
B1	125	7	0.7%
	120	33	
	115	45	
	110	175	
	105	222	
A2	100	578	12.8%
	95	608	
	90	1,183	
	85	946	
	80	1,804	
	75	1,736	
	70	1,971	
A1	65	1,816	86.5%
	60	2,347	
	55	1,978	
	50	2,516	
	45	2,111	
	40	2,417	
	35	1,988	
	30	2,497	
	25	2,080	
	20	2,258	
	15	2,167	
	10	2,562	
	5	2,913	
	0	30,089	
	平均	27.2	
	調査対象	69,052	
	0点	20,139	29.2%

＜話すこと＞３問（対面約10分）

CEFR	得点	Speaking	割合
B1	14	274	1.7%
A2	13	272	11.1%
	12	415	
	11	501	
	10	657	
A1	9	691	87.2%
	8	770	
	7	946	
	6	1185	
	5	1632	
	4	1105	
	3	1648	
	2	1450	
	1	2827	
	0	2210	
	平均	4.5	
	調査対象	16,583	
	0点	2,210	13.3%

※CEFRは、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力評価のために、透明性が高く分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表した。欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等・中等教育を通じた目標として適用されたり，言語能力に関する調査を実施するにあたって用いられたりしている。本調査では、便宜上A1～B2レベルまでを得点帯刻みに設定し分布を把握。（別紙参照）

【テスト結果と生徒質問紙のクロス集計】

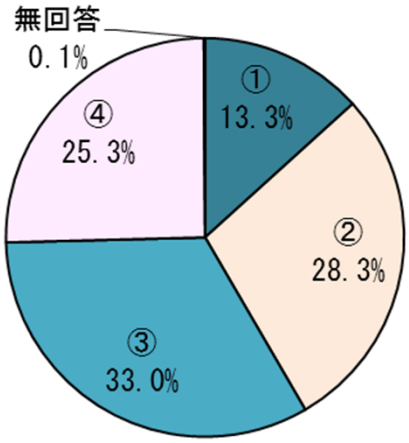
1.英語学習に対する生徒の意識

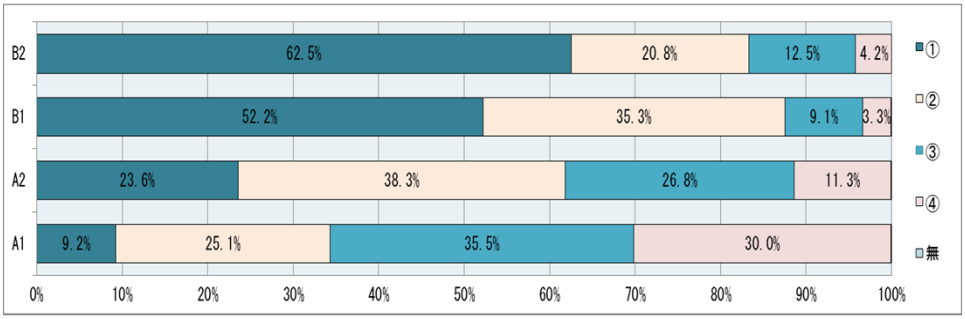
生徒の英語学習に対する意識①

○　英語が好きではない（選択肢③④）との回答が半数を上回る。
特にA1レベルにおいて顕著（公立）。

問　英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を１つ選んでください。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





※「読むこと」のテスト結果とのクロス

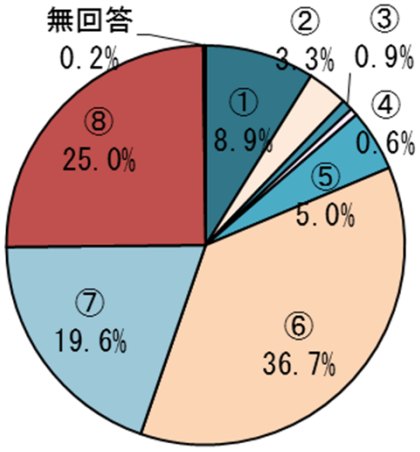
現在の英語力と将来の英語使用のイメージ②

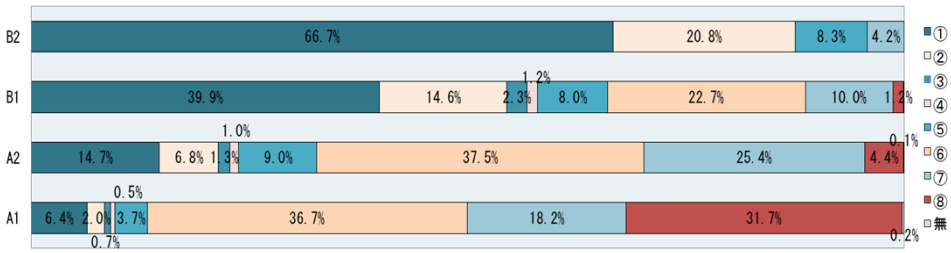
○　現在の英語力のレベルによって将来の英語使用のイメージが異なる（公立）。

「英語をどの程度身に付けたいと思っていますか」という問いに対し、B2、B１など試験結果が高いほど、「英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい」（選択肢①）「大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい」（選択肢②）を選択する生徒の割合が高い。

問　どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを１つ選んでください。

①英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい　②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい
③高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい
④高校在学中に留学して、海外の高校の授業に参加できるようになりたい
⑤海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい
⑥海外旅行などをするときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい
⑦大学入試に対応できる力をつけたい　⑧特に学校の授業以外での利用を考えていない





※「読むこと」のテスト結果とのクロス

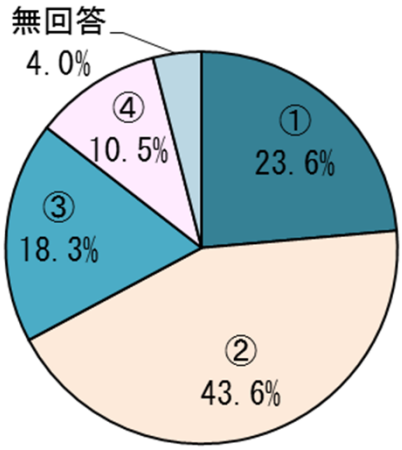
２．４技能の言語活動に対する生徒の意識

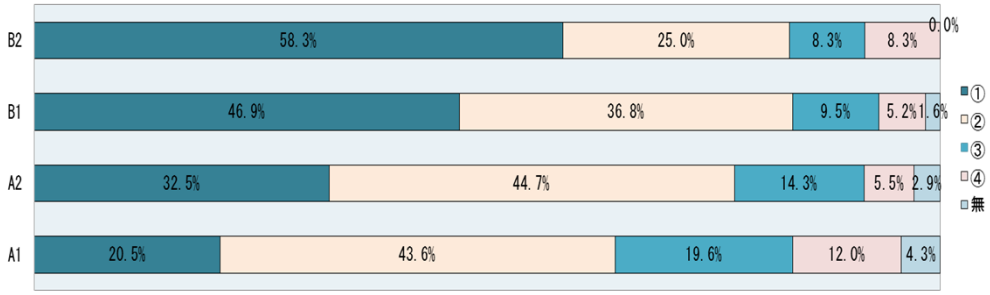
４技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「読むこと」「聞くこと」①

○英語を読んだり聞いたりして、概要や要点をとらえる活動をしていた生徒は半数を上回る（選択肢①②合計：リーディング67.2%、リスニング58.2%（リスニングの図は略））
○「読むこと」「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」（選択肢①②）生徒の割合が高い（公立）。

問　第２学年での英語の授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





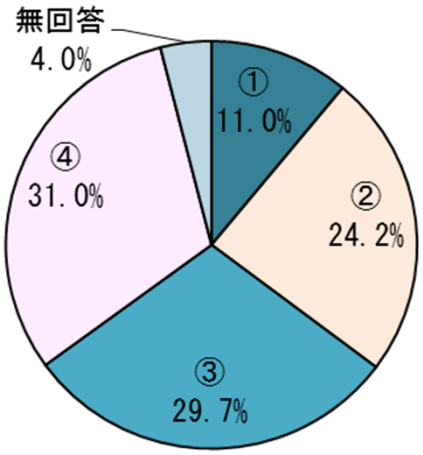
※「読むこと」のテスト結果とのクロス

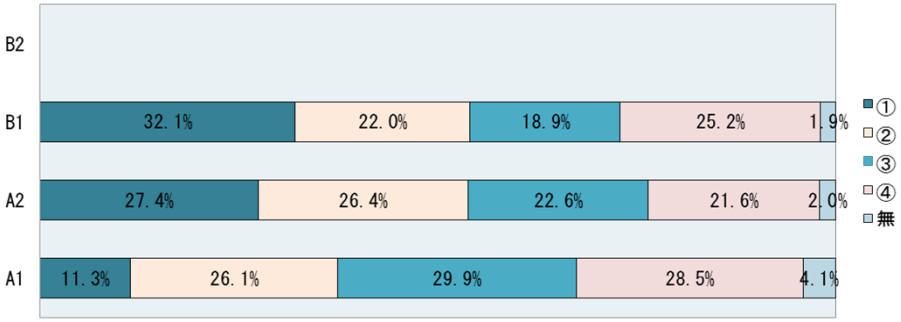
４技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」②

○聞いたり読んだりしたことについて、英語で話し合ったり意見交換をした経験が少ない（選択肢①②合計：35.2%）。
○「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思う」（選択肢①②）生徒の割合が高い（公立）。

問　第２学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





※「話すこと」のテスト結果とのクロス

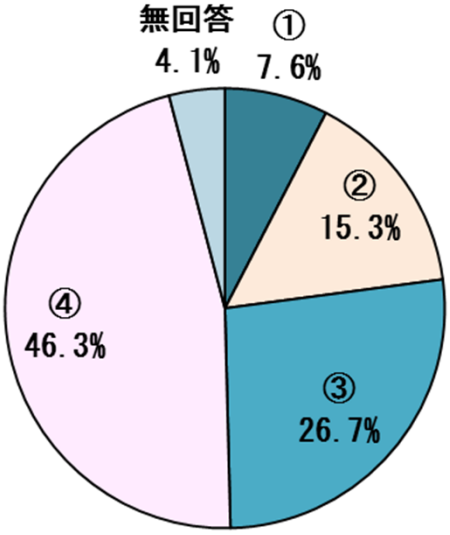
４技能の言語活動に対する生徒の意識

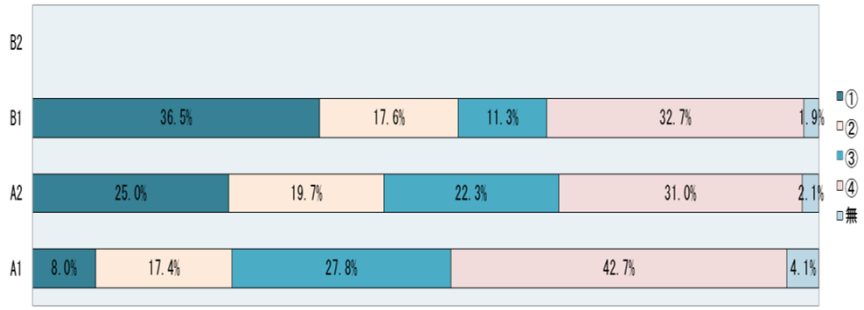
４技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」③

○英語でスピーチやプレゼンテーションをした経験が少ない（選択肢①②合計：22.9%）。
○「話すこと」の試験結果が高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」生徒（選択肢①②）の割合が高い（公立）。

問　第２学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





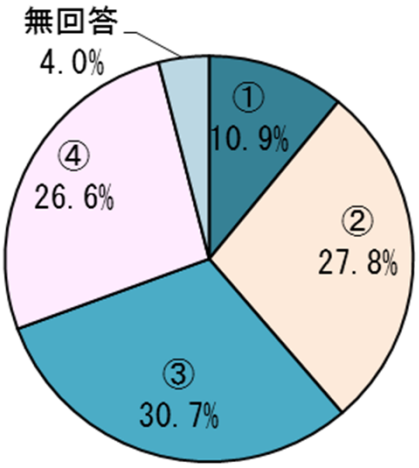
※「話すこと」のテスト結果とのクロス。

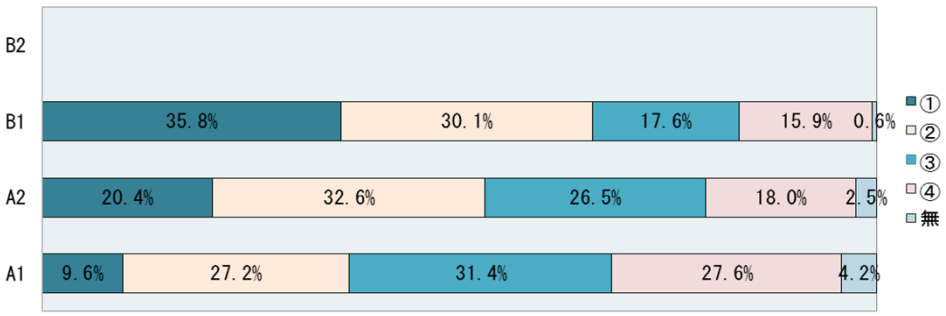
４技能を通じた言語活動に対する生徒の意識④
〈技能統合型：聞いたり読んだりして書くこと〉

○　聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりした経験が少ない（選択肢①②合計：38.7%）。
○「書くこと」の試験結果が高い生徒ほど、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた割合（選択肢①及び②）が高い(公立)。

問　第２学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない





※「書くこと」のテスト結果とのクロス。

3．授業における言語活動の指導に対する教員の意識

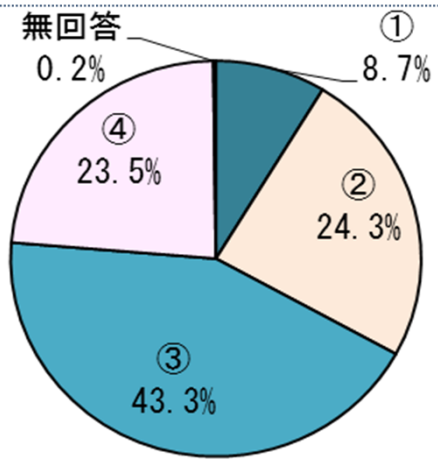
授業における言語活動の指導①
＜技能統合型：聞いたり読んだりしたことに基づく話合いや意見交換・書く活動＞

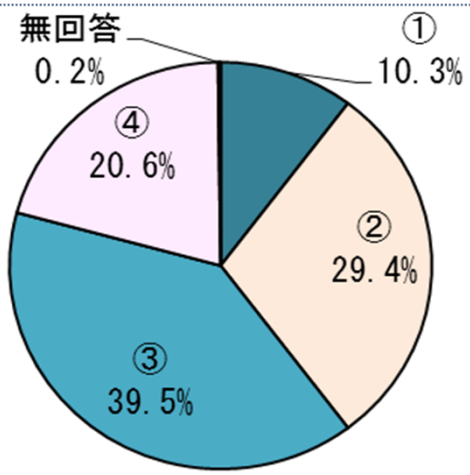
○　聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話合いや意見交換を行っている教員（選択肢①②の合計：33.0%）、書く活動を行っている教員(選択肢①②合計：39.7%）が少ない（公立）。

問　聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っていますか。

問　聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか。

①よくしている　②どちらかといえば、している　③あまりしていない　④ほとんどしていない





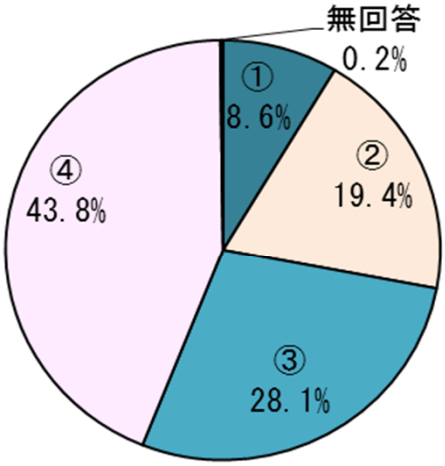
授業における言語活動の指導②
＜技能統合型：スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション＞

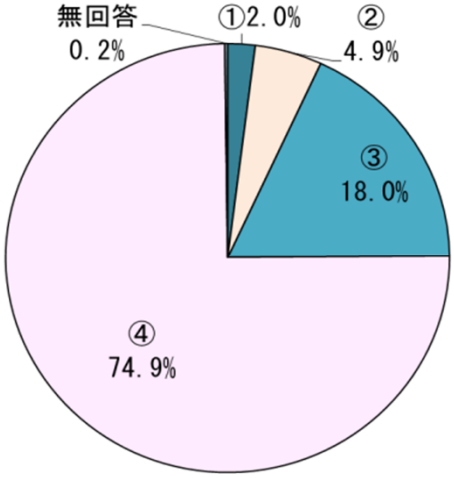
○　スピーチやプレゼンテーションを行っている教員が少ない(選択肢①②合計：28.0%)。
○　ディベートやディスカッションを行っている教員が非常に少ない(選択肢①②合計：6.9%)。
(公立)

問　スピーチやプレゼンテーションを行っていますか　。

問　ディベートやディスカッションを行っていますか。

①よくしている　②どちらかといえば、している　③あまりしていない　④ほとんどしていない





学校の取組紹介①：思考力・表現力・表現力を伸ばす指導でコミュニケーション・ツールとしての英語力を鍛える

1　学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成２７年２月調査日時点，学科名はⅠ～Ⅲで表示）

学級数･生徒数	Ⅰ学科／第３学年…２学級（83 人）、Ⅱ学科･Ⅲ学科／第３学年…４学級（168 人）
ＡＬＴ活用状況	常勤のALTが１人。３年次はライティングの授業で、授業の４回に１回の割合で入る
備考	･**スーパーサイエンスハイスクール、スーパーグローバルハイスクールの指定**

2　テスト結果、質問紙における学校の特徴 ⇒ **４技能全体が全国平均を上回る。**

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該高等学校の平均点	201.6	203.4	81.1	10.9
全国平均点（公立学校）	126.7 ／ 320	117.1 ／ 320	24.9 ／ 144	4.2 ／ 14

3　生徒質問紙結果 ⇒ 生徒の英語学習の目的意識が高い。

- 「英語の学習は好きか」という質問に**70％以上　（全国は約４０％）**が「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」と回答。
- 将来の英語使用のイメージは、「国際社会で活躍できるようになりたい」、「大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい」との回答が**４９.６％(全国は１２.２％)**
- 「聞いたり読んだりしたこと」について、「生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしている」と答えた生徒が**７５．５％(全国は３５.２％)**と高い。

4　特色ある授業内の取組

①教科書の英文に触れる機会を増やし、使える英語の習得につなげる

教科書の英文を**何度も聞いたり読んだり**する機会を与えることでコミュニケーション能力の向上につなげるとともに，様々な**ペア・ワークに取り組むなど工夫**を凝らし、生徒の知的好奇心を喚起。

②思考力や表現力を伸ばす課題の設定

答えが一つではない問いを考えることで、より深い読みを促すとともに、生徒同士との**ペア・ワーク**などを通して、**多様なものの見方があることを体感**させる。

課題文を読んでエッセイを書くなど自分の考え・意見をアウトプットする機会が多い。

③自信を持ってコミュニケーションを図れる雰囲気づくり

自分の英語力に自信が持てず、抵抗を感じる生徒も少なくないため、生徒の知的好奇心を喚起するとともに、話しやすい教室の雰囲気づくりを意識。

（英語プレゼンテーションコンテストの様子）

（英語の授業でディベートを実施している様子）

特色ある授業外の取組

○生徒たちが自ら行き先を決める海外研修

１年次に海外研修を実施。生徒は研修内容（学校や企業訪問、インタビューなど）を計画し、現地の情報を調べて共有。

（海外研修の様子）

学校の取組紹介②：独自教材と共通の評価方法を用いて４技能を総合的に伸ばす

1　学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成２７年２月調査日時点）

学級数･生徒数	12 学級（438 人）／第３学年…４学級（149 人）
ＡＬＴ活用状況	常勤のALT が１人。１･２年次は各クラス週１回、３年次は各クラス２週間に１回。
備考	･独自教材を作成し，生徒の英語力に合った興味･関心を喚起する教材の利用と課題の設定を工夫 ･数年前まで生徒指導上の困難を抱えていた学校

2　テスト結果、質問紙における学校の特徴 ⇒ テストスコアは平均をやや下回るも４技能にわたる言語活動が多く、バランスよく育成

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該高等学校の平均点	113.2	108.2	16.1	3.0
全国平均点（公立学校）	126.7 ／ 320	117.1 ／ 320	24.9 ／ 144	4.2 ／ 14

3　生徒質問紙結果 ⇒ 高３でもスピーチやプレゼンテーションなどの言語活動の実施率が高い。

- 「聞いたり読んだりしたこと」について、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしている」と答えた生徒が**７６．２%(全国は３５.２%)**と高い。
- 英語でのスピーチやプレゼンテーションの実施率は、第３学年で**７０%強と全国平均(２２．９%)を大きく上回っている**。
- 生徒は言語活動主体の授業に好印象を抱いており、「英語での会話が楽しいので時間をもっと増やして欲しい」といった声が寄せられる。英語を話すことに対する抵抗感もなくなりつつあり、教員にも気軽に英語で話しかけてくる生徒が多くなった。

4　特色ある授業内の取組

①英語を使う素地をつくる「スモール･カンバセーション」

毎時間、冒頭１０分間で、**生徒同士でペア**となり、初歩的な英語によるＱ＆Ａ形式の会話を繰り返し行う。教科書の内容に関わる質問を盛り込み、学習事項の理解や定着を促す。

②英語での授業を徹底し、グループ単位の「スモール･プレゼンテーション」を多く取り入れる

扱うテーマに対する興味を喚起してから音声を聞き、いくつかの設問によって概要把握ができているかを確認。その上で、教科書本文の内容を図式化して構造的に理解し、総括となる課題（「ゴール･アクティビティ」）を与え、**長めの英作文やグループでの発表（スモール・プレゼンテーション）**などに取り組ませる。

③共通の評価項目で、スピーキング、リスニング、ライティングを評価

スピーキングテストでは**ペアで行う会話のテスト**や、教員と対面式の**インタビューテスト**を実施。ライティングテストは、定期考査のなかでパラグラフ･ライティングを実施。**同一の評価項目・評価方法**を用いることで、教員間で評価の差が出ないようにしている。

特色ある授業外の取組

〇スピーチコンテストへの出場

県主催のスピーチコンテストに参加し、H25年度には県大会への出場。 敗退したが、次年度へのモチベーションに繋がった。

（スモール･カンバセーションの様子①）

（スモール･カンバセーションの様子②）

学校の取組紹介③：CAN-DO リストに基づいた４技能統合型の授業を推進

1　学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成２７年２月調査日時点）

学級数･生徒数	15 学級（548 人）／第３学年…５学級（196 人）
ＡＬＴ活用状況	ALT は１人で、週４日勤務。授業は第１･２学年の全クラスでそれぞれ週１回担当
備考	･生徒の学習意欲向上を重視した学習到達目標（CAN－DOリスト）の設定･評価の工夫

2　テスト結果、質問紙における学校の特徴 ⇒ **４技能の言語活動の割合が高く、ライティング、スピーキング力は全国平均の２倍以上。**

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該高等学校の平均点	137.2	134.6	54.8	8.8
全国平均点（公立学校）	126.7 ／ 320	117.1 ／ 320	24.9 ／ 144	4.2 ／ 14

3　生徒質問紙結果 ⇒ **「聞く，読む」→「話す，書く」の統合型の言語活動が多い。**

◈ 「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりする活動」**７９．３％（全国では３５.２％）**、「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動」**７８．２％（全国平均３８．７％）** はいずれも高い割合で実施。

4　特色ある授業内の取組

①学習到達目標－CAN-DOリストに基づいた授業設計で、教員間及び教員･生徒同士で目標を共有

CAN-DOリストにより，教員間で指導･評価の方向を共有するとともに，生徒は自分が何ができるようになったのかや課題は何であるのかを可視化、教員間で指導･評価の方向を共有。

②毎時間ペア･ワークを行い、実際の場面で使えるスピーキング力を育成

授業ではほぼ毎時間、ウォームアップとして、既習の文法事項を活用した**ペア・ワークを行っている。**文法事項を単に暗記させるのではなく、実際のコミュニケーションの中で当該文法事項を使うことを大切にしている。

③書いた文章を生徒相互で読み合うことによる読み手を意識したライティング活動

ライティングでは、授業の２回に１回は、「登場人物にEメールを書く」など**まとまりのある文章を書く**。**完成した文章はペアやグループで相互に読み合う**ことで、読み手が理解しやすいように文章を書くことを心がけている。また、スピーキングテストと同時に**エッセイテスト**などにおいて**ライティングの評価**を行い、地域の英作文コンテストに向けた校内予選を兼ねている。

特色ある授業外の取組

英字新聞の発行、スピーチコンテスト等への積極的な出場

英字新聞発行のため生徒が記者として記事を書いたり、生徒の寄稿を受け付け２、３か月に１回発行し、生徒全員に配付。また、英作文コンテストやスピーチコンテスト、自治体や企業が主催する短期海外研修プログラムにも、多くの生徒が参加を希望。

（１対１の「お見合い回転ずし」の体形でスピーチ）

（「すごろくゲーム」形式でリテリング（再話））

【調査問題の構成】

●「読むこと」：多肢選択式・3パート構成・43問（約45分）

●「聞くこと」：多肢選択式・2パート構成・36問（約25分）

●「書くこと」：自由記述式・2パート構成・2問（約25分）

計 約2単位時間

●「話すこと」：音読、即興での質疑応答、ある程度準備した上での意見陳述について評価基準を設け、教員が面接を実施（約10分）

約10分

［試験問題の構成］

	Reading 読むこと	Listening 聞くこと	Writing 書くこと	Speaking 話すこと
測定する力	実際の言語使用場面を前提とした英語コミュニケーション能力 （「知識・技能」の習得だけでなく、それらを活用して思考・判断・表現する総合的な力）			
問題構成	**語彙・語法問題 14問** （短文の中で、文脈を理解するとともに、文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力） ※A2～B1相当	**課題解決問題 18問** （日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報（イラスト）と音声情報から、その場で求められている課題（タスク）を解決する力） ※A2相当	**情報要約問題 1問** （英文音声で聞いた情報を理解し、指定語数（30語程度）で要　約して書く力） ※B1～B2相当	**音読問題 1問** （適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさで話す力） ※A1～B2相当
	概要把握問題 6問 （与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力） ※A2～B1相当	**要点理解問題 18問** （英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする力） ※A2～B2相当	**意見展開問題 1問** （与えられた話題について、限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力） ※A2～B2相当	**質疑応答問題 1問** （試験官からの問いかけに応じて生徒自身の経験や考えを適切に述べる力） ※A1～B2相当
	情報検索問題 8問 （与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力） ※A2相当			**意見陳述問題 1問** （与えられた話題について、事実と自分の意見とを区別して、論理的に説明する力） ※A1～B2相当
	要点理解問題 15問 （まとまった量の英文について、英文の趣旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力） ※B2相当			

［生徒・学校・教員に対する質問紙調査の構成（約15分）］

項目	内容
生徒質問紙	○英語そのものに関する意識（関心、英語を身に付けて何をしたいかなど） ○英語使用に関する経験（スピーチ大会、プレゼンテーション、留学など） ○英語に関する資格・検定試験の受験経験 ○英語の学習方法・内容や学習時間 ○学校における4技能活用状況　　など
教員質問紙	○教員の指導状況について（スピーチ、プレゼン、ディスカッション、研修への参加状況、自己学習の状況）
学校質問紙	○学校組織での指導の実態について（模擬授業など研修実施等）

（別紙）

外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠について

・CEFRは、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表した。現在、欧州域内外で使われている。

・欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施する際に用いられたりしている。

熟練した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

（出典） ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)			8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400	7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検： 日本英語検定協会 http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/
http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901_pressrelease_01.pdf
TOEFL：米国ETS Webサイトに近日公開予定
IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より
TEAP： 第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より
Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/
http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/

GTEC ：ベネッセコーポレーションによる資料より
TOEIC ： IIBC http://www.toeic.or.jp/toeic/about/result.html
「**L&R**」または「**S&W**」の記載が無い数値が４技能の合計点

※各団体の公表資料より文部科学省において作成

(参考)

「英語教育改善のための英語力調査の分析･活用に関する検討委員会」の設置

平成26年5月19日
初等中等教育局長決定

1. **設置の趣旨**

平成26年度「英語教育改善のための英語力調査事業」を活用して、生徒の英語力の現状等を検証するとともに、調査結果に関する分析及びその活用の推進のための方策等について検討を行う「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する検討委員会」を設置する。

2. **取扱事項**

（１）生徒の英語力の現状把握及び調査結果の分析
（２）調査結果を活用した改善に向けた取組の推進方策の検討
（３）その他

3. **実施方法**

（１）本委員会の構成員は別紙のとおりとする。
（２）本委員会のもとに、必要に応じてワーキンググループを置くことができる。
（３）必要に応じて、別紙以外の関係者にも協力を求めることができる。

4. **実施期間**

平成26年5月26日から平成27年3月31日

5. **その他**

この作業に関する庶務は、初等中等教育局国際教育課において行う。

6. **英語教育改善のための英語力調査事業報告書　執筆協力者（五十音順）**

（職名は平成27年3月現在）

安間　一雄　　獨協大学国際教養学部言語文化学科　教授　　○主査
岡部　憲治　　工学院大学附属中学校・高等学校　教諭
竹内　理　　関西大学外国語学部外国語学科　教授
根岸　雅史　　東京外国語大学大学院総合国際学研究院　教授
○松本　茂　　立教大学グローバル教育センター長
森　　博英　　日本大学経済学部　教授
渡部　良典　　上智大学言語科学研究科　教授

文部科学省においては、次の関係官が担当した。
向後　秀明　　文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
（兼）国際教育課外国語教育推進室教科調査官